



豆を撒いて、邪気を払う。

平成十四年度善光寺節分会

今年の善光寺節分会はちょうど日曜日の重なった二月三日に、善光寺釈迦殿で行なわれました。当日は「雪」という天気予報にも拘わらず、三百人を超える檀信徒のみなさんが参加。古来から伝わる季節の行事を通して、仏に祈ることの大切さを改めて考える一日となりました。



黒田老師の読経。その傍らでは善光寺檀信徒一人ひとりの平安が祈念されます。

節分の意味を考えながら

午前十一時、法要は福田孝雄老師による法話から始まりました。「中国から伝わった悪霊を追い払う行事が八世紀に宮中に定着、それが仏教的に転化して、豆を撒く、鬼の目を潰すことによって、積極的な行為として悪しきものを追い払い、さらに、悪しきものを追い払うだけでなく、それを善なる力に転換していくという考え方です。同時に豆を自分自身にあるものをたとえ、自らの中にある邪悪なものを追い払うこと」と節分の由来とその意味を、また、祈とうにさきがけて、「たとえ、その言葉の意味がわからなくても、音経を発することでこの空間が宗教的な空間となり、みなさまの信心が全身に行き渡り、聖なる世界へと誘います」とその意味をお話しいただきました。

続いて、檀信徒の代表でもある元防衛医科大学教授中村治雄先生は医師の立場から「生活の知恵として、豆の中には心臓病にかかりにくくしたり、心臓病にかかっても致命的になりにくい成分が含まれているので、健康のためにも豆を食べることをお奨めします」というお話がありました。



子どもたちに人気の赤鬼さん。



豆撒きの途中で黒田老師の発声による大拍手。みなさんも一所懸命にあわせます。

祭壇に飾られた80体の達磨は希望者の手に。

豆を撒いて一年の平安を祈願

黒田老師のお導きによる三百人を超える般若心経の合唱は檀信徒の心をひとつに集めます。

「身近におられると気づかないのですが、黒田老師は大教師という曹洞宗でも数少ない存在だそうです」と語られる衆議院議員田中慶秋様、「檀信徒の心をひとつにしよ」と総代の熊谷豊太郎様、ホワイトボードまで使った節分の意義と残された夫々の人生の「生き方」などユーモアたっぷりなお話をいただいた東郷敏氏。

そして、祭壇に飾られた八十の達磨が檀信徒のみなさんに配られると、赤鬼青鬼の登場です。「福はウチ、鬼はソト」。あらかじめ前に集まった年男女や厄年の方だけでなく、参加したみなさんが拵に入った豆を撒きながら和やかに「鬼はソト」の合唱が行なわれます。途中、黒田老師の掛け声で全員の手拍子。その勢いにはきつと「鬼も一目散」でしょう。重い雨雲を吹き飛ばす勢いで今年もまた恒例の豆撒きは幕を閉じました。



おめでたい枡の上に飾られた達磨。



ご来賓のみなさん。



節分会の後には客殿で和やかな昼食。

上から福田孝雄老師、中村治雄先生、熊谷豊太郎様。田中慶秋様、東郷敏様。

